

環境志向型の価格決定

～「木づかい運動」と三菱鉛筆のエコ活動～

「木づかい運動」が最近、注目されつつあります。「木づかい運動」とは、暮らしに国産の木材を使った製品を取り入れて、日本の森林を育てるエコ活動のことです。

この運動は、2005 年から林野庁が「木づかい運動」として PR を行い、毎年 10 月には「木づかい推進月間」として、集中的な取り組みを実施しています。



林野庁では、2005 年度から、「木づかい運動」のロゴマークとして、「サンキューグリーンスタイルマーク」を使用していましたが、2013 年度から、ロゴマークのデザインを一新して、「木づかいサイクルマーク」を使ってアピールしています。このマークは、日本の美しい森の再生を願い、「植える、育てる、収穫する、上手に使う」という森のサイクルや、地球環境を思う人たちの連携やつながりを「無限大∞」で表現しています。

三菱鉛筆（株）は、2008 年 4 月に国産木材を使った「故郷の木持ち（ふるさとのきもち）」というブランドで、ボールペンとシャープペンシルの軸の部分に沖縄県の「琉球松」や大分県の「日田杉」を使用して発売しました。その後も、全国都道府県の「スギ・ヒノキ・ヒバ・マツ」などを使って、都道府県内限定で発売しています。

その発想のきっかけは、子会社の印鑑メーカーが原材料に使う「ツゲ」の問題でした。ツゲのほとんどが東南アジアからの輸入材でしたが、「適法に伐採されているか」という疑問がありました。そのため、輸入材に代えて、国産のスギやヒノキを使った「エコ印鑑」を 2003 年に開発し発売したのです。

ペンの軸部分の製法は、伐採した木を 120 度の蒸気で蒸らし、180 度まで温度を上げながらプレスします。薬品などをいっさい使わず、傷つきにくいという特徴もあります。価格は 1 本 2,100 円で、同社のペンとしては中価格帯に設定し、商品には、地域の木材を使っていることを説明するしおりを入れ、「地産地消の商品として地域の森林など自然に愛着を持ってほしい」という意図を紹介しています。この取り組みは、利益優先ではなく、地域に根ざした環境保全を最優先にしたものでした。CO₂ の吸収や国土を災害から守るといった森林の持つ多くの働きを発揮させるためにも、国産材を使って森を育てることは大切なことなのです。

資料番号：6-95-1

出所：『日経 MJ(流通新聞)』2008 年 6 月 20 日付

林野庁ホームページ：<http://www.rinya.maff.go.jp/j/kidukai/top.html>

木づかい運動推進サイト：<http://www.kidukai.com/index.php>